



1. 特集：最新データでみる日本食品の輸出動向

2022年12月の農林水産省の発表によれば、2022年10月時点で日本からの食品輸出は、**2021年よりも1か月早く、2年連続で1兆円を超えました**。輸出先として、中国、米国、香港が上位で、輸出額の増加をけん引しているのは水産物であることが発表されています。

本稿では、最新データに基づき、日本食品の販路開拓を行う上で、現在どの国・地域への輸出が好調なのか、上位以外ではどのような国への輸出が有望なのかを報告します。

(1) 日本食品の輸出額上位の国・地域

2022年1-10月までに日本食品が輸出された上位10か国・地域は、下表のとおりです。日本食品の輸出額は、インバウンド客数・当該国の日本食レストランの数と相関関係があり、輸出額上位の国には多くの日本食レストランがある他、当該国からのインバウンド客数も非常に多い状況です。一般的に、海外における日本食レストランの需要と当該国からのインバウンド客数の増加とともに、当該国への日本食品の輸出が増加する傾向があります。

こちらは信用金庫とそのお取引先向けとさせていただきます。

ご覧になりたい場合は、お近くの信用金庫（検索は[こちら](#)）までご相談ください。

(2) 日本食品輸出に関する有望国

日本食レストラン数やインバウンド客数に対し、比較的輸出額が少なく、今後伸びしろのある国として、インドネシア、マレーシアおよびカナダがあげられます。それぞれの国については、以下のような事情がありますが、輸出が拡大する余地があると考えられます。

[続きを読む](#)

イ. インドネシア・マレーシア

インドネシア・マレーシアについては、国民の大半がイスラム教徒であるという特徴があります。日本からの輸出品を両国内でイスラム教徒向けの国民に向けて流通させるためには、ハラール認証を取得することが求められることがあります。ハラ